

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公表番号】特表2006-519361(P2006-519361A)

【公表日】平成18年8月24日(2006.8.24)

【年通号数】公開・登録公報2006-033

【出願番号】特願2005-518537(P2005-518537)

【国際特許分類】

G 0 1 R 31/04 (2006.01)

H 0 1 Q 1/32 (2006.01)

【F I】

G 0 1 R 31/04

H 0 1 Q 1/32 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年9月22日(2008.9.22)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アンテナへの少なくとも 1 つのコネクタ、例えば、自動車ウィンドウシールアンテナへのアンテナ信号路内のコネクタの監視用の診断方法において、
直流電流給電信号を、アンテナ信号路を介してアンテナ（１）の方向に供給し、前記直流電流給電信号を、前記アンテナ信号路内でのコネクタ用の診断信号としても、増幅器回路（３１）のウィンドウ側の端子端部で高周波アンテナ信号に加算し、
前記アンテナ信号路内に設けられている前記増幅器回路（３１）に、前記診断信号としての前記直流電流給電信号を供給し、
 前記診断信号は、故障した前記コネクタ（４）の場合に、前記増幅器回路（３１）の電流給電を制御し、
 前記増幅器回路（３１）の電流消費が所定の、電流消費の電流範囲（電流窓）の外側に位置しているかどうか検出し、場合によっては障害が生起していることをシグナリングすることを特徴とする診断方法。

【請求項 2】

診断信号として、増幅器回路（３１）用の直流電流給電信号を使う請求項 1 記載の診断方法。

【請求項 3】

診断抵抗（８）を介して診断信号を供給し、前記診断抵抗（８）での電圧降下を監視し、少なくとも 1 つのコネクタ（４）での障害時に、前記診断抵抗（８）での電圧降下を用いて、増幅器回路（３１）に対する電流給電遮断器（１０）を作動する請求項 1 又は 2 記載の診断方法。

【請求項 4】

診断信号を、アンテナ側のコネクタ（４）通過後、増幅器回路（３１）の電流給電端子（３２）に帰還する請求項 1 又は 2 記載の診断方法。

【請求項 5】

診断信号を、アンテナ信号路に設けられたダイバーシティ装置（２１）に供給し、続いて、アンテナ信号路内に供給する請求項 1 ～ 4 迄の何れか 1 記載の診断方法。

【請求項 6】

診断信号を、アンテナ信号路乃至当該アンテナ信号路の高周波ケーブル（5）を介してファントム給電（phantomgesspeist）する請求項 1～5 迄の何れか 1 記載の診断方法。

【請求項 7】

アンテナへの少なくとも 1 つのコネクタ、例えば、自動車ウィンドウシールアンテナへのアンテナ信号路内での少なくとも 1 つのコネクタの診断装置において、アンテナ（1）の方向でのアンテナ信号路内での診断信号の生成及び供給手段、前記アンテナ信号路内の増幅器回路（31）に診断信号を供給する手段、前記診断信号が、少なくとも 1 つのコネクタ（4）によって障害の影響を受けているかどうか依存して前記増幅器回路（31）の電流給電を制御する手段、前記増幅器回路（31）の電流消費の検出用、及び、前記電流消費が所定の、電流消費の電流範囲（電流窓）の外側に位置している場合、障害が生起していることをシグナリングする手段を有することを特徴とする診断装置。

【請求項 8】

診断抵抗（8）が、増幅器回路（31）の供給分路内に設けられており、前記診断抵抗（8）は、評価ユニット（9）と接続されていて、該評価ユニット（9）を用いて、前記増幅器回路（31）用の電流給電遮断器（10）が操作可能である請求項 7 記載の診断装置。

【請求項 9】

診断信号を、アンテナ側のコネクタ（4，43）の通過後、増幅器回路（31）の電流給電端子（32）に帰還するための手段が設けられている請求項 1 又は 2 記載の診断装置。

【請求項 10】

アンテナ信号路、乃至、当該アンテナ信号路の高周波ケーブル（5）を介しての、診断信号、例えば、増幅器回路（3）用の直流電流給電信号のファントム給電部（Phantomspesung）が設けられている請求項 7～9 迄の何れか 1 記載の診断装置。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0002

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0002】

従来技術

単数乃至複数のコネクタの診断のために、受信機、例えばラジオ又は TV ボックス内に、アンテナ信号路内の増幅器回路の正常作動領域用に電流の電流範囲（電流窓）を設けることが公知である。電流消費が所定の電流の電流範囲（電流窓）内にならない場合、障害がシグナリングされる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

コネクションが差し込まれていないか又はコネクタのコンタクトがエラーなし状態ではない場合、高オーミック診断抵抗 8 での電圧降下を介して、診断抵抗 8 に接続された評価ユニット 9 により、増幅器回路 31 用の電流遮断器 10 が作動状態となる。このような、増幅器回路 31 の遮断によって、電流は流れないか、又は、極めて僅かな電流しか流れない。この僅かな電流は、受信機 2 で検出され、即ち、増幅器回路 31 の電流消費は、所定

の、電流消費の電流範囲（電流窓）の外側に位置しており、受信機 2 での障害がシグナリングされる。図 1 に示されているリアウィンドウシールアンテナでは、ヒートフィールドは、一方ではアースに接続されており、その結果、ここでは、検出は、簡単に、ウィンドウ側の単に 1 つのコネクタコンタクトを介して可能である。図 2 に示されている実施例による別個のアンテナ構造では、検出は、ウィンドウ端子コネクタ 4 でアースに対するブリッジ 4 2 を介して行うことができる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

図 4 の実施例では、整合段 3 の前に接続されたダイバーシティ装置 2 1 のコネクタも一緒に監視される。診断信号は、ここでも、アンテナ信号路の高周波ケーブル 5 を介してファントム給電（p h a n t o m g e s p e i s t）され、ダイバーシティ装置 2 1 の入力側で分離され、ダイバーシティ装置 2 1 の増幅器回路に供給され、出力側で高周波信号に再度付加される。